

## EM フォーラム in 南部 事例発表

<発表その1>

「EMで安全・安心・美味楽々環境保全型農業」

埼玉県認定エコファーマー

野村耕司さん（埼玉県）



### 【発表内容】

発表者の野村氏は、高校生の時にEMと出会い、以来、比嘉教授の著書をすべて読み尽くし、EMを活用した農業を志すきっかけとなった。

無農薬・無化学肥料にこだわるのは、アトピーを患う自分自身が安心して食べられる野菜を作りたかったためだが、農業を始めた頃は、虫のために野菜を作っているようなものだった。

その後、比嘉教授の指導を受け、土づくりにEMをジャンジャン使うことで、次第にコツを掴み始め、現在は約60aの畑で年間約30品目の露地野菜を栽培している。出荷先は主に地域の直売所。消費者の評判も高く午前中には売り切れることが多い。



畑の様子



直売所の様子

EM栽培をスタートして、気づいたのが、野菜が非常に元気なこと。例えばサトイモの場合、作業中に誤ってクワで傷つけても、イモが腐ることなくそのまま成長する。



【 11月になっても元気なサトイモ 】  
株元に空心菜を植えることで雑草抑制  
すると共に、冬には自然に枯れる。



【 12月中旬になっても  
成長を続けるオクラ 】

オクラは、12月中旬になっても成長し収穫が続いた。収穫後そのまま放置していたスイカの株が再び開花し、秋に結実することもあった。他にも 35℃で受粉障害を起こすトウモロコシが猛暑下で結実したりと、その効果は目を見張るものがあった。

また、トウモロコシの天敵であり、農薬以外での防除が難しいアワノメイガに対しては、出穂期に熟成したEMボカシ（I型）を穂に散布することで防除が可能になった。



EM栽培のトウモロコシ



アワノメイガ対策にEMボカシを散布

消費者からは、野村さんの野菜を一度食べた子どもは、スーパーの野菜を食べなくなったとの話を聞き、大変喜んでいる。

「この活動を続けていくためには地域でネットワークを作って広げていくのが一番。みんな情報交換を行いながら盛り上げていきましょう」と発表を締めくくった。